

【文学部 日本文学科】

専門科目

解答例（解答のポイント）

※公開する解答例には、別解がある場合があります。

問 1

- (a)静かに。そっと。(b)早朝。(c) たえがたい。苦しい。つらい。(d)すぐに。
(e)実用的なもの。

問 2

ひと気のない荒れた宿に住む女が「人が来る」と鳴く鶯は誰を待っているのかと詠むと、男はここに来たけれどあなたに話しかけることに慣れていないので、鶯が、私の来たことをあなたに告げなさい、と教えて鳴くのですと返歌している。

問 3

この宿は大路より雨がいつそう漏るかのような有様なので、かえって濡れてしまう。ここでは、雨宿りには向いていません。

問 4

「ゐ」は動詞「ある」の連用形に完了助動詞「ぬ」の終止形が接続し、座ったの意となる。

問 5

女の家は貧しくて、少将にご馳走しようとしたが出来ない。

問6

女の家は貧しく、もてなしをするにも庭に生えている菜を摘んで蒸し物にして茶碗に盛り、箸には花盛りの梅の枝を折るという粗末なものであるが、衣の裾を濡らしながら苦心して摘んだ若菜ですよ、というその場にふさわしい和歌を花びらに優雅に書き付けて、心のこもったもてなしをしたことがきっかけになっている。

問7

法師(名詞)に(格助詞)なり(ラ行四段・連用形)に(助動詞・完了・連用形)けり(助動詞・過去・終止形)

問8

僧正遍昭

問9

麻と朝、袈裟と今朝が掛詞となっている。